

《原 著》

## 慢性腎不全症例における心筋虚血の特徴と 心臓交感神経活性の関連

成田 充啓\*      栗原 正\*      新藤 高士\*      澤田 善博\*  
本田 稔\*\*

\* 住友病院循環器科

\*\* 同 放射線科 (アイソトープ室)

要旨 慢性腎不全 (CRF) での心筋虚血の特徴を検討するため虚血性心疾患が疑われた CRF 36 例を対象に運動負荷心筋灌流イメージング (Ex-PI) を施行した。一部の症例では  $^{123}\text{I}$ -MIBG (BG),  $^{201}\text{Tl}$  イメージングを行い心臓交感神経活性を定量評価した (BG の取り込み比; UR, 洗い出し率; WO)。Ex-PI で灌流異常 (PA) は 25/36 に出現, 19 例で冠状動脈造影を施行した。冠状動脈 (CA) 狭窄のない 5 例と前下行枝 1 枝病変の 2 例で下壁に一過性の PA を生じた。このうちの 6 例 (A 群), CA 狭窄を有し下壁に一過性の PA を生じた 5 例 (B 群), PA を生じなかった 7 例 (C 群) で UR, WO を評価した。B 群では C 群に比し下壁の UR が有意に低下し WO は亢進傾向にあったが前壁の UR, WO は C 群と同等であった。A 群では C 群に比し下壁のみならず前壁でも UR の低下, WO の亢進を見た。CRF では CA の狭窄なしで心筋虚血を生じうる, この虚血の出現に心臓での交感神経活性の異常が関与している可能性を示唆した。

(核医学 36: 979-987, 1999)